

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防犯対策に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	2	1	11	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	伊藤 正二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	防犯灯管理・LED化推進事業において、防犯灯の現況調査、防犯灯管理団体から市への移管手続きを行う。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	防犯灯管理・LED化推進事業において、LED灯交換工事及び電力会社への減設等申請、独立柱建替・撤去工事を行い、これらの工事の調整及び履行確認を行う。
②①に基づく取り組み結果	既設防犯灯の種別や設置場所等の現況調査を行った。年度末に防犯灯管理団体から市への移管手続きを完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	自治会等の防犯灯管理団体、自主防犯団体、鎌ヶ谷市防犯協会	意図(対象をどうするのか)	各団体に補助等を行い、犯罪が起こりにくい環境の整備及び防犯活動の充実を図る。
②事務事業の概要	犯罪のない安全で安心なまちづくりを推進するため、防犯灯の維持管理、防犯カメラの運用、鎌ヶ谷市防犯協会との連携を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	令和元年の市内刑法犯認知件数は前年から減少し、事業の効果は向上している。今後も自治会等の協力を得て防犯対策の強化を図る必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	防犯灯の新設や維持管理により、犯罪が起こりにくい環境が整備された。防犯カメラ16台の更新工事を行い、防犯カメラ合計17台の適正な運用を行った。市民や鎌ヶ谷市防犯協会と連携し、自主的な防犯活動による防犯体制が整備された。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	刑法犯認知件数	759	827	716	件	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算	
事業費(千円)	80,596	79,635	金額(千円)	内容		9,566	
国支出金(千円)			8,635	防犯カメラ撤去及び設置工事			
県支出金(千円)	1,115	3,450	1,595	防犯灯設置工事		400	
市債その他(千円)	600		60,049	防犯灯維持管理費補助金			
一般財源(千円)	78,881	76,185	5,835	防犯協会補助金		9,166	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	防犯灯管理・LED化推進事業において、LED灯交換工事等を円滑に実施する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	環境負荷の低減、電気料金の削減、自治会等の防犯灯管理団体の事務軽減等のため、拡充する必要があることから、防犯灯管理・LED化を推進する。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越	
		H30⇒R1繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	令和2年度への繰越額(単位:千円)					

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	夜間防犯パトロール事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	伊藤 正二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市内全域のパトロールのほか、犯罪を未然に防ぐため、市民や庁内からの情報提供・依頼等によるパトロール重点活動地域を積極的に指定する。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	犯罪を未然に防ぐため、市内全域のパトロールを実施し、市民や庁内からの情報提供・依頼等により積極的にパトロール重点活動地域を指定する。
②①に基づく取組み結果	夜間防犯パトロールの実施時に、異常を発見した際は担当部署への連絡、犯罪の恐れがあると判断した際は警察への通報を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	犯罪の多い夜間にパトロールを実施することで、犯罪発生件数を抑制する。
②事務事業の概要	青色回転灯付防犯パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施する。パトロール中に不審者等を発見した場合は、直ちに警察へ通報する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	令和元年の市内刑法犯認知件数は前年から減少し、事業の効果は向上している。今後も犯罪が起きやすい夜間のパトロールを継続して実施する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	青色回転灯付防犯パトロール車2台により、週5日間、1日7時間のパトロールを実施した。 ・パトロール日数 260日 ・警察への通報件数 10件				
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i 刑法犯認知件数	759	827	716	件 業務取得
	ii				
iii					
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算
事業費(千円)	11,969	12,724	金額(千円)	内容	17,878
国支出金(千円)			12,724	夜間防犯パトロール委託	
県支出金(千円)					
市債その他(千円)					
一般財源(千円)	11,969	12,724			17,878

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	令和元年の市内刑法犯認知件数は前年から減少しているが、自転車盗などの窃盗犯件数が依然として多いため、犯罪発生地域へのパトロール重点活動地域の指定などの対策が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	より効果的な防犯活動を行うため、精査・検証し、引き続き犯罪発生状況等の情報収集を行い、夜間防犯パトロールを実施する。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	青色回転灯付防犯パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	青色回転灯付防犯パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	14,582	14,582	当初	14,582	12,724	H30からの繰越
				H30⇒R1繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分 12,724
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		令和2年度への繰越額(単位:千円)					